

平成28年度ヒロ・デザイン専門学校 学校関係者評価
(評価対象期間：平成28年4月1日～平成29年3月31日)

1. ヒロ・デザイン専門学校の学校評価の進め方について

(1) 学校評価におけるアンケートについて

①アンケートの対象

学校評価にあたっては、職員だけでなく、学生、保護者、企業関係講師、インターンシップで連携いただいている企業等、外部アンケートを実施し、客観性を高め、その結果を踏まえ自己評価を実施する。

②アンケートの問いかけについて

わかりやすい言葉で質問する。また、答えにくい質問に対しては、無理に回答を求めず、回答の精度を高める。

③学校の取り組みを付記

質問事項に関して学校の取り組みの状況を付記し、回答しやすくするとともに、学校理解につなげる。

(2) アンケートの集計結果から評価の方法

職員、学生、保護者、企業関係講師、企業の回答集計データを基に評価の高いほうから、A・B・C・Dの4段階で評価を行う。

(3) 学校関係者評価

学校の自己評価を基に、学校関係者委員会で委員の意見を踏まえ、学校関係者評価をまとめる。

2. 評価項目についての評価

(1) 教育理念・目標

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・学校の教育理念・目的・育成人材像について学生や保護者に伝えるよう努めているが、十分に伝わっているか。	A
・各科が目指す職業人を育成するため、科の特色に沿った実践教育が十分に行われているか。	A
・社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	A
・各学科で育成しようとしている人材像は、今後の各業界の方向性に沿ったものになっているか。	A

①自己評価

教育理念・目標の項目については、全体的に、評価が高い。特に、「各科が目指す職業人を育成するため、科の特色に沿った実践教育」については、講師・企業、保護者についても評価が高い。そのことから、本校の根幹である職業教育は、適正に使命をはたすことができているといえる。また、「学校の教育理念・目標・育成人材像について学生や保護者に伝わっているか」が、去年はB評価だったが、本年度はA評価となった。学生、保護者の評価が昨年より数値が上がっており、これまで、学校の教育方針等について、年度当初や集会等の中で周知に努めた成果が上がったものと思われる。今後も機会をとらえて周知する取り組みを継続するとともに、保護者あてのヒロ・デザ通信を計画的に定期的な発行を継続していきたい。

②学校関係者評価

高校側委員：学生の評価が高く、教育理念や目標が理解されていると思われる。

学生委員：学生の立場として、3年間の自らの成長に伴って、学校が目指していることなど、先生方が言われていることが理解できるようになってきた。

③課題及び今後の改善方策

自己評価を実施するようになり、職員自身が教育理念や目標を常に意識するようになった。そのことで教育理念や目標が学生の指導にも反映されるようになり、学生や保護者に浸透してきていると思われる。今後も、職員の意識を一層高めていくように努める。社会のニーズや業界の方向性については、関係情報の収集とともに、業界関係者との関わりを密接にもちながら教育課程編成委員会を活用していく。

(2) 学校運営

評価項目	A・B・C・Dの4段階で評価
・目的等に沿った運営方針が策定されているか	A
・運営方針に沿った事業計画が策定されているか	A
・運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	A
・人事、給与に関する規程等は整備されているか	A
・教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	A
・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	A
・ホームページ等で、各種の教育活動を公開し紹介しているが十分か	A
・情報システム化等による業務の効率化が図られているか	A

①自己評価

学校運営面では、全項目についてA評価と高い評価となっている。職員の業務分担が明確になり、意思決定についてのシステムが構築でき、組織的な動きができています。また、ホームページについては、「what's new」のコーナーの更新頻度があがり、校内での行事や取り組みについて、ほとんどその日のうちにUPができています。Instagramにも取り組み、高校生のSNSの活用状況に対応するよう努力しています。これからもホームページの充実を図るとともに、社会の変化に敏感に対応していく必要があります。また、業務の効率化については、職員間の共有フォルダを使い、効率化を図ってきたことで一定の成果をあげることができているが、一層の効率化をはかるために、共有フォルダ内の整理を定期的に行っていくことが必要である。

②学校関係者評価

学生委員：学校の状況などをホームページ等での発信について、ブログだけでなく、Instagramの更新が頻繁に行われている。

学生委員：学生や高校生などは、Instagramの利用者が多いので効果的だと思う。先生方が書かれる部分と、学生のブログやInstagramなど両方からの発信があるので、両方からの目線で見ることができるので良い。

保護者委員：ホームページを、入学当初はよく見るが、次第と見る回数が減っていく。現在も行われているように通信を送ってもらうとありがたい。

企業委員：会社では、担当ホームページのみで、SNSはやっていない。情報の流出など心配な面がある。ホームページについても、フィルターや、担当者、セクションなどでチェックをしている。新鮮な情報の提供と危機管理とのバランスを取ることが必要である。

③課題及び今後の改善方策

学校の運営については、全体的にシステム化を図り、円滑に機能している。また、共有フォルダの整理を定期的に行い、作業効率を上げるよう努める。インターネットの活用については、ホームページだけでなく、ネット上での発信の形態も、ブログやInstagramなど常に変化している。その変化を敏感に察知しながら、対応していくとともに、個人情報の管理等危機管理に常に留意しなければならない。これまでも、細心の注意をはらってきたところだが、今後は、もっと系統的に、情報をアップする段階と、アップされた情報をチェックする段階と、いくつかの段階的なチェックと担当者を決め、チェック体制を明確にする。

(3) 教育活動

評価項目	A・B・C・Dの4段階で評価
・教育理念や学校が目指す人材育成に沿った学科編成や教育課程の編成がおこなわれているか	A
・教育理念を踏まえ、学校が目指す「現場で即戦力となる」力を育成するための学習時間は確保されているか	A

・業界の必要とする知識・技能を、限られた時間で、効果的に修得できるよう、各科目の関連と段階を考えた教育課程が編成されているか	A
・出口としての就職を目的とするだけでなく、人生設計やキャリアアップ等を踏まえた教育内容や教育方法の工夫ができていますか	A
・関連分野における実践的な職業教育(企業等との連携によるインターンシップ、実技・実習等)は、知識や技能の学習とバランスを図りながら、取り入れられているか	A

①自己評価

教育活動の項目については、全項目がA評価と評価が高い。平成27年2月に、ファッション流通ビジネス科、ブライダル科が、そして平成28年2月にプロフェッショナルデザイン科が、文部科学省から、「職業実践専門課程」の認定を受けた。本校では、日ごろから企業と連携し、企業の講師による実践的教育はもとより、各科のインターンシップや、セレクトショップ、HIRO'S(学生企画作品の販売)等多くの現場での実習を行っている。そうした実践が、学生や保護者には、企業と連携した教育として実感できていると思われる。また、継続的にインターンシップ等で企業に協力いただいていることで、企業側の理解も進み評価されていると思われる。

昨年度と比較し学習時間の確保について学生の評価が高くなっている。昨年度この項目について評価が低かった。学習時間は、年間1000時間を超える授業が行われているのに、このような評価になったのは、学生が多く課題を抱え授業の中で終わることができず多忙感をかかえているからではないかとの分析から、各教科での課題等について担任が中心となり課題の全体量の把握調整を図った。そのことで、学生の負担感が減少し、この評価につながったと思われる。

②学校関係者評価

学生委員：学校での学習時間の確保についてだが、デザイン科は、課題に追われ常に多忙感がある。ただ、技術を身に付けるためには、現在の課題の量は必要だと思うので、学生自身が学校で行う作業と家で行う課題を計画的に行い両立させる力を身に付けることが大切。

学生委員：学校でのイベントでは、イベントに取り組むことを学習の一環として役割を分担し、成功を目指し全員で取り組んでいる。そういう時は、通常の授業の課題もあり忙しくなるが、担任の先生が課題の提出期限等を調整してもらうので助かっている。

卒業生委員：インターンシップでは、プラスαが学べる。就職してからのギャップが少なくなると感じる。インターンシップは、業務内容も勉強になるが、業界の方々と関われる機会になるため、大変有効である。現在プランナーとして仕事をしているが、インターンシップで見たり経験したりしたことで、演出やコーディネートの一例として引き出しが増えたと感じている。インターンシップの充実は大変なことだと思う。

③課題及び今後の改善方策

学生委員の意見からも、担任等の課題の調整等がうまく機能したことが窺える。今後も学生一人ひとりに目を向け、抱えている課題の調整を図るように努める。インターンシップについては、企業との連携を十分に図りながら時間の増加と内容を充実させていく。

(4) 学修成果

評価項目	A・B・C・Dの4段階で評価
・業界就職率ほぼ100%を達成することができているが、就職指導についての取り組みは十分か	A
・学科毎に資格検定に組み、高い取得率を達成しているが、その取り組みは十分か	A
・在校生や卒業生の活躍など把握した時点で紹介し、活躍を奨励したり、他学生の刺激になるようにしたりしているが十分か	A
・卒業生が来校した時等に、学校で学習したことが、役に立つものだったか、また学習しておいた方がないものがないかについて把握し、教育活動の改善に活かすよう努めている。そうした対応は十分か	A

①自己評価

学習成果の項目については、全ての項目で評価が高い。特にこの数年の業界就職率がほぼ100%であり、各種検定については高い合格率の実績があることで、講師や企業、保護者の評価が高くなっている。しかしながら、この1~2年、高い合格率を維持しながらも、検定によっては、数人の不合格者が出ている。一層の取組みが必要だと考えている。在校生や卒業生の活躍についての奨励等については、一昨年に続き、全国規模のファッションコンテストでの受賞式の様子をリアルタイムで、視聴したりしたこと等もあり、評価がさらに高くなった。また、卒業生が本校を訪れた時など、学生に対して話をしてもらい機会を設定するなどしていることで、卒業生の情報を教育活動に生かすことができている。

②学校関係者評価

企業委員：検定に積極的に取り組まれていることは素晴らしい。企業からすると検定は学生時代に受けておいて欲しい。仕事に就いてからだと、なかなか受けることが難しい。

学生委員：入学時に検定合格率100%と聞いてびっくりした。実際に入学して、検定に対して課外での指導が徹底しているので100%達成するのだと実感した。

③課題及び今後の改善方策

就職指導や検定試験指導については、現在の取組みを一層充実させ、成果が上がるように努めていく。検定試験によっては、問題の傾向が次第に変化しているものもあり、その動向を十分に把握しながら対策を講じる必要がある。

(5) 学生支援

評価項目	A・B・C・Dの4段階で評価
・業界就職率100%を達成しており、就職等の指導や支援については、担任を中心に、一般教養の担当等、その他の科目担当者等、学校全体で、取り組んでいる。こうした就職指導や支援は十分か	A
・学生相談について、担任を中心に、学校全体で、学校生活の相談や進路相談に対応しているが体制は十分か	B
・授業料について一部免除や、生活態度や成績が優秀な学生、努力する学生を奨励するため、報奨金や学費の免除等の多くの修学支援を行っているが十分か	A
・学生の健康管理のために、4月に健康診断、11月にインフルエンザの接種指導、毎日の、朝のホームルームでの健康観察、緊急時のため近隣のクリニックと連携しながら健康管理の仕組みを作っているが十分か	A
・学生全員が、一定の基準の知識・技能が習得できるよう、授業時間だけでなく、個人指導や補習及び課外を行ったり、全員が検定合格できるよう授業時間以外の指導を行ったりしているが十分か	A
・学生の学校における生活環境への支援は十分か	A
・学生の様子で気になることがある場合、保護者に連絡を取り連携を図るようにしているが十分か	A
・卒業生の相談等についての対応、支援の体制は十分か	A
・高校等との連携によるキャリア教育・職業教育に係る職業理解等への協力要請について十分に対応しているか	A

①自己評価

学生支援の項目の中で、保護者との連携について昨年度までB評価だったが、本年度A評価となった。学生からの連絡がなく、朝のホームルームに登校していない時は、本人に連絡し、それでも連絡がつかないときは、家庭に連絡することを徹底していることや、学校の様子で気になる場合は、本人と面談を行い、状況によっては、保護者に連絡をするなどを徹底していることが評価につながったと考えられる。就学支援の項目については、本年度は特に熊本地震後、家屋の全壊、半壊の家庭について、授業料の減免も実施した。健康管理の項目については、これまで行ってきた対応が、浸透し評価につながったと思われる。

学生への相談体制については、昨年度より、学生、保護者の数値は上がったもののB評価となっている。学校としては、学生の社会人としての自立心の育成のスタンスを方針としながらも、学生の細かい変化を見逃さないよう努め、声掛け等に心がけているところである。しかしながら、学生や保護者側からするとこれまでの小・中・高の学校と同様に職員にもっと踏み込んで欲しいという期待があると思われる。学生に自ら行動する主体性と社会の厳しい現実への対応力を身に付けさせる上からも、学生の様子を見守りながら、指導と支援のバランスをとっていく必要がある。

②学校関係者評価

学生委員：相談体制についてだが、放課後は相談しにくく、朝のホームルーム後は授業がすぐ始まるので相談する時間がない。来年度、担任の体制が変わると聞いているので不安がある。

企業委員：企業でも、メンタルな部分での相談体制が必要になっている。相談窓口を作り、一人常駐している。

高校側委員：高校でも支援を必要とする人が増えている。課題を抱えた生徒も多く、クラスにそうした生徒が一人いると、それが波及する。生徒相談部で対応するとともに教師一人ひとりがカウンセリングマインドを持つように研修を行うなどしている。スクールカウンセラーにも月に数回来てもらっている。

③課題及び今後の改善方策

評価全体でB評価は、学生の相談体制の項目のみである。委員の意見からも、社会全体に精神的なストレスを抱え、支援を必要とする人が多い状況が窺える。専門学校の役割としては、悩みを抱える学生をサポートしながらも、全体的にはストレス耐性のある学生をどのように育てていくのが重要である。次年度の担任制の見直しについても、自立する学生の育成を基本に置き、自ら問題解決に向けた行動を起こすように指導するため、学科長を担任として、職員全員で学生一人ひとりをしっかり見て育ていく体制にしていくことにしている。今後学生の不安を取り除き、効果をあげられるよう丁寧に説明に努める。一方、相談のできる時間とカウンセリング体制については検討課題とする。

(6) 教育環境

評価項目	A・B・C・Dの4段階で評価
・職場で即戦力として働けるように、施設環境を用意し、企業等で使用されているものと同等の製品を整備するように努めている。インターネットの環境も整備をしている。十分か	A
・校内での学習だけでなく、春には、研修旅行を、秋には、遠歩などの校外研修を実施している。また、隔年で、海外研修を行っている。そうした取組みは十分か	A
・消防設備を整備するとともに、業者による点検や、消防署への報告を行い、防消火避難訓練や地震への対応訓練等を行っている。このような防災への対応については十分か	A

①自己評価

教育環境の項目では、施設設備について、学生・保護者の評価が高くなっている。他校の状況との比較理解が進んだことが考えられる。また、校外消防設備及び管理体制については、熊本地震の経験もあり、教室内にヘルメットの装備や、棚の転倒防止のフック設置を行うとともに、地震への対応訓練も実施した。

授業以外の取り組みでは、本年度は、金沢を中心とした国内研修を実施し、地域の歴史や文化に触れることができた。実施後のレポートにおいても高い満足が窺え、高い評価につながった。

②学校関係者評価

学生委員：W i F i の環境はいくらか改善されたが、まだ、つながりにくい時がある。一度に多くの人を使う場合が特にそういった状況になる。プリンターが壊れやすく使えない時がある。

③課題及び今後の改善方策

27年度末に、IT環境の整備を行ったことで、W i F i の環境が改善されたが、まだ不十分な状況がある。早急に改善に取り組む。また、プリンターについては、新規購入の準備を進めている。

(7) 学生の受入募集

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・学生の募集について、学校外で行う高校生を対象とした各種ガイダンス、高校でのガイダンス、高校訪問、夏休み等に行うオープンキャンパスや説明会による募集活動を行っている。高校生が理解しやすいよう丁寧な説明に心がけている。適正だと思うか	A
・学生募集活動において、教育成果として、就職状況や検定試験の合格状況等を、ホームページやパンフレット等で紹介し、対面する場合は、具体的に学生に身につく知識や技術について説明している。十分に伝えられているか	A
・学納金については、毎年度、必要経費を積算し見直している。妥当な金額になっているか	A

①自己評価

学生の募集活動の適正さと教育活動の成果について、年々評価が高くなっている。このことは、学生が高校生の時に、本校が募集活動で行ってきた丁寧な説明や、教育の成果についてのホームページやパンフレット、口頭での説明が適切であると評価できるのではないだろうか。

また、学納金については、昨年B評価だったがA評価と高くなった。本校では、教科書採用及び使用教材等についてその必要性和金額の妥当性についての毎年度検討会議をおこなっており、教育効果を上げるために必要不可欠なものに絞っている。今後も学納金については、保護者や学生に対して、細かく丁寧に説明を行うよう努める。

②学校関係者評価

学生委員 : 入学した当初は、学んでいるカリキュラムの関係性や内容が十分理解できず、ブライダルに必要な授業かどうか疑問を感じたりしたが、インターンシップを経験すると、必要な内容なのだと理解できるようになった。

学生委員 : デザイン科で学んでいるが、将来的にMDやバイヤーを考える者のために、ビジネス関連についてのカリキュラムを選択できるようにできないだろうか。

③課題及び今後の改善方策

学生の確保は、常なる課題だが、本校での進路先や学習の内容、目的を正しく理解してもらい、進路希望とのミスマッチが起こらないようにしなければならない。今後も高校での説明会や、オープンキャンパスなどで、学校の教育活動や成果を正確に伝えるとともに、興味・関心を引き出し、意欲を喚起するプレゼンテーションの工夫を併せて行う。

デザイン科の学生は、その希望する進路に合わせてカリキュラムを柔軟に行うようにしているが、学生にそのことが十分に伝わっていないと思われる。今後も、学生の希望をしっかりと把握し、対応していく。

(8) 財務

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	A
・予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	A
・財務について会計監査が適正に行われているか	A
・平成26年度より、財務情報について、ホームページで公開している。十分か	A

①自己評価

本校は、完全な自己資本で運営できている。この数年、入学する学生の数が減少しており、単年度的には厳しい財務状況だが、負債もなく財務基盤は安定している。学校の経営基盤の強化を図るため、中期経営戦略についてプロジェクトを組織し、学校の特色化の推進や広報活動の強化、学校の知名度をあげるための取り組みや、オープンカレッジを充実させる取り組みを行い成果をあげつつある。本年度は、熊本市のクリエイティブ人材育成事業の企画・運営を受託するなど新たな展開への足掛かりをつかむこともできた。

②学校関係者評価

高校側委員 : 学校の財務が、安定していることは素晴らしいことである。今後、学生の確保が大きな課題だと思うが、高校側に学生の入学につながる情報の提供に努力して欲しい。

③課題及び今後の改善方策

今後、財務状況の安定のためにも、一層業界のニーズに応えられるよう努力するとともに、高校生にとって魅力ある学校づくりに努め、学生の確保につなげていく。

(9) 法令等の遵守

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・本校は、国が定める専修学校設置基準等の施設設備、教員数、学科、授業時間等の基準を守り、適正な運営を行っているが、十分か	A
・学校では、学生の氏名、性別、住所、電話番号、成績等の個人情報の扱いについて、慎重に取り扱っているが、十分か	A
・平成26年度から、学校評価を実施し、その結果を踏まえて、学校の改善に取り組んできた。改善への取組みは十分に行われているか	A
・平成26年度から、学校評価を本格的に実施し、その結果をホームページで公開をしている。公開の状況は、十分か	A

①自己評価

法令等の遵守の項目については、全体的に評価が高い。個人情報等の取扱いについては、学生の住所や電話番号、成績及び記録等は鍵のかかるロッカーで管理し、インターンシップ等で使用する学生側の氏名等についても、企業と協定書を交わし、管理に最善を尽くしている。学校評価を踏まえての改善の取組みと公開の状況について、共に学生の評価が高くなっており、学校の取組みについての理解が進んだものと思われる。この状況に甘んじることなく、今後も、評価を真摯に受けとめ、改善策を検討し、継続的に改善を図っていかねばならない。

②学校関係者評価

保護者委員：学校が学校評価の導入により、よりよい学校にしようとして取り組まれていることは強く感じる。担任の制度の在り方の変更について、親としても不安を感じている。学校としての考えがあつてのことだと思つるのでその変更の意図等について、学生に説明をお願いしたい。

③課題及び今後の改善方策

今後も、学校の教育理念を中心に据えながらも、学校関係者評価委員会での意見を真摯に受け止め、学校の見直しを行っていく。担任の制度の在り方の変更については、自立する学生の育成を目的としたものであり、終講式において、全学生に対して、説明を行う。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	A・B・C・Dの 4段階で評価
・本校の学生の教育活動のためだけでなく、一般の方を対象としたオープンカレッジを実施したり、検定の試験会場として会場の提供を行ったりしているが、そうした社会貢献・地域貢献は、十分か	A
・学生たちが社会に対して目を向け、社会や地域における自己の役割を認識し、活動できる人材となるように呼びかけて、学生主体でのボランティア活動等を行っている。こうした取組みは十分か	A
・地域や公的機関等からの協力依頼や委託について積極的に協力できているか	A

①自己評価

学校の施設設備については、これまでも地域における検定の試験会場に提供したり、一般の方を対象としたオープンカレッジを開催したりと地域や社会への貢献に取り組んできたが、本年度から、さらに教室やホールを一般に対して貸会場として、利用できるようにした。また、オープンカレッジについて、昼の部を開設し、充実を図っている。学生たちの社会貢献活動については、熊本地震を踏まえ、「ひろがるわ」をテーマに掲げ、自分たちが持っている力で社会貢献しようとして、ブライダル科は被災し結婚式を挙げられなかった方たち10組を対象に行われたシビルウエディングのサポートを、プロフェッショナルデザイン科は、本年度から熊本市が主体となり開催することになった「まちなかコレクション」に協力しファッションショーを行い、ファッション流通ビジネス科は、同イベントの中で、アパレル企業に呼びかけ商品の提供を受けチャリティーフリーマーケットを開催し、その売り上

げを熊本市に熊本地震の義援金として寄付するなどに取り組んだ。そのことで、学生は、達成感を感じることができ「社会貢献」への意識も強化された。

②学校関係者評価

学生委員：本年度は、熊本地震があったことで、学生として色々なボランティアに取り組むことができた。ブライダル科はシビルウェディングにボランティアとして協力できて有意義な経験となった。

学生委員：ビジネス科はチャリティーフリーマーケットで熊本を笑顔にしようと取り組み、販売も経験でき、得た収益を義援金として寄付をすることもできた。

学生委員：デザイン科は、市が主催するイベントでファッションショーを行いファッションを通して明るい気持ちを届けられた。個人的にも、避難所で清掃とプライベート空間の設置のボランティアを行った。本年度だけにならないように、継続的に取り組むことが大切だと感じる。

③課題及び今後の改善方策

今や社会貢献は、個人的な課題ではなく、企業においても、会社の利益だけでなく、社会への貢献の方針や方向性が求められている時代であり、それなくしては、企業として信頼が得られない時代である。今回の取り組みや活動を、一過性のものにならないように、学生が自らの活動を通して社会貢献の意味を学んでいけるよう取り組んでいく。

3. 総合的な評価と今後の改善方策

職員、学生、保護者、企業関係の講師、企業へのアンケートを実施し、そのデータを踏まえて、自己評価を行った。昨年に続きアンケートに学校の取り組み状況の資料を付記したことで、学校の取り組みへの理解が進んだ。また、全体的に評価が上がった項目が多く、ほとんどの項目についてA評価となった。

その自己評価を踏まえ、学校関係者評価委員会から、多くの意見をいただいた。それらの意見を基に今後の見直しを行っていく。

本校は、全学科が文部科学省より職業実践専門課程の認定を受けており、業界及び企業と連携し、業界のニーズに即した教育課程を編成し、高度な実践的な授業や演習、実習を実施している。また、各種検定の合格率や就職の内定率が高く、学生や保護者の要望に応えるとともに業界を担う人材の育成できていると言えよう。学校関係者委員会でも、高い評価を頂いた。

本年度の特異な状況として、これまで経験したことのない地震を経験し、様々な面でその影響を受けた。特に、全ての人と同じ恐怖を共有したことで仲間意識が生まれ、様々な取り組みについて協力的で寛容な空気が生じた。本年度の社会貢献活動についてはその影響が大きく、学校関係者委員会の学生委員からも、社会貢献の取り組みについて、連帯感と充実感が窺われた。今後は社会貢献活動におけるこの連携の意識をこの一年で終わらせることなく、活動を継続してしていくことが重要である。

今後の課題としては、学生の相談体制の整備、保護者との連携強化、教育環境の整備、学生の社会貢献活動の充実、学生の受入募集の拡充等がある。また、教育課程や教育内容については、高い評価の状況にあるが、その評価に甘んじることなく、常に、企業や業界の動向を把握し、教育課程、教育内容の見直しを図りながら、即戦力となる人材の育成に努める。